

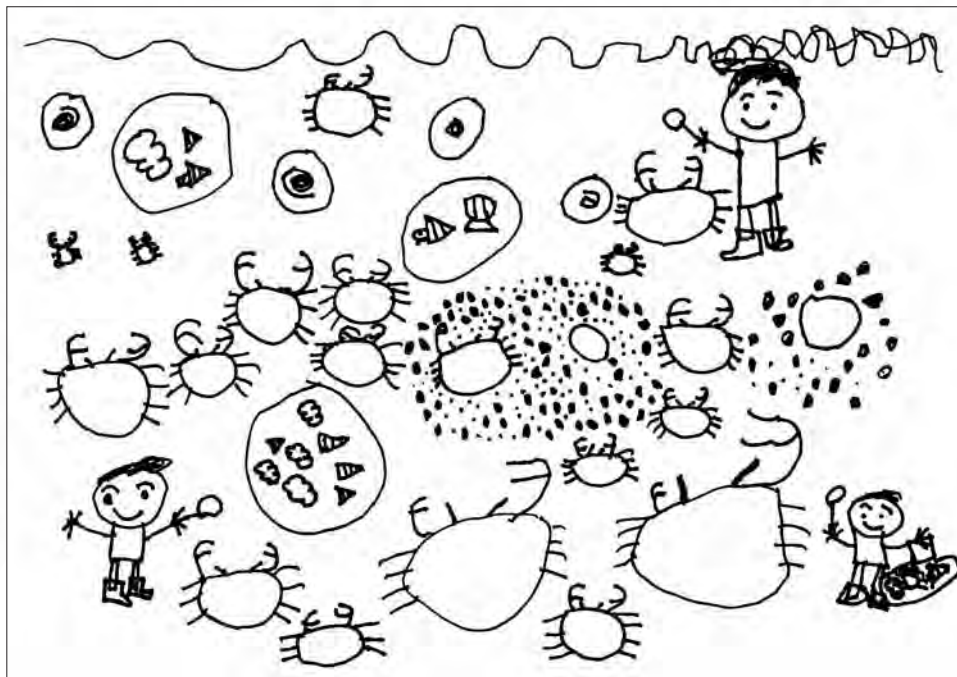
☆和自干潟通信☆ ☆愛して、わじろ☆



No.110

2014年4月15日
発行: 和自干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の東日本大震災、福島原子力発電所の事故から3年がたちました。被害を受けられたみなさまに、1日も早い復興とご健康を心よりお祈り申し上げます。私たちは応援しています。



「香椎保育所」さくら組の子ども達の絵「わじろひがたであそんだよ！」

和自干潟を守る会の「博多湾・和自干潟の自然保護活動」が、 日本ユネスコ協会連盟により 第5回「プロジェクト未来遺産」に登録！！

未来遺産登録証伝達式は、2014年2月20日に福岡市東区の東市民センターで行われました。主催の日本ユネスコ協会連盟の方々をはじめ、来賓や和自干潟を守る会会員等約40名の参加の中、日本ユネスコ協会連盟の秋道智彌委員により和自干潟を守る会の山本廣子代表に登録証が手渡されました。全国39プロジェクトの応募の中から、10団体の活動が選ばれました。「博多湾の和自干潟は、大都市近郊にありながら自然海浜を残す砂浜干潟として、日本の大都市近郊における他地域の干潟とは顕著に異なる。和自干潟を守る会の活動は25年に及び、干潟埋め立て反対運動から自然観察と保全、そして山・川・海の循環に着目した里海創生活動へと時代に即応して展開してきた。効率的な事務局運営体制と、幼児から大人を巻き込んだ地域主体の保全活動を推進する柔軟な実践力が高く評価できる。」という選考理由で、高い評価を受けたそうです。福岡市長や福岡県知事からの祝詞や祝電も届き、環境省福岡事務所長や日本湿地ネットワーク副代表など4名の方々からの祝辞をいただきました。お礼に会員皆で「ミヤコドリ」の歌を合唱し、和自干潟の湧水で作った塩をお土産にお渡ししました。私たちは100年後の子どもたちのためにこの和自干潟の自然を守り継ぎたいと、決意を新たにしています。ラムサール条約登録に向けても大きな一歩です！



2014年度 和白干潟を守る会 総会報告 (高田 将文)

主な役員と事務局組織

事務局組織と内容は下図の通りです

2月22日に、2014年度の総会が開催されました。参加者は15名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で26年目を迎えました。2013年度はラムサール条約登録をを求める署名を福岡市と環境省に提出し、さらに私たちの活動が、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に登録されました。2013年度も素晴らしい活動ができたと思います。今年度もラムサール条約登録地となるよう希望を持ってがんばりましょう。みんなの力で自然豊かな和白干潟を未来の人たちに渡したいと思います。」と開会挨拶。次いで議長に松田元、書記に中嶋伸子を選出。各担当者から2013年度の活動報告、会計決算報告等があり、続いて2014年度活動方針、スケジュール、予算等について提案がありました。質疑応答の後、すべての議案が承認されました。最後に山本代表が「今年も気持ちを一つにしてがんばりましょう」と締めくくりました。

会鳥 ミヤコドリ	観察会
代表 山本廣子	クリーン作戦 干潟まつり
事務局	HP編集・通信 調査、写真 書記、会計 名簿・通信配布管理
事務局長 今村恵美子(再)	助成金、監査
事務局員 中嶋伸子(再)	保全のつどい
山之内芳晴(再)	山川海
会計 田中 貞子(再)	資料点検



2014年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます!

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」、「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の機運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。
 博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
 和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。
 和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2013年度決算と2014年度予算

2013年度決算

当期収入は216万円で、主な収入は会費33万円、寄付金83万円、助成金等73万円と事業収入が21万円です。当期は特に各企業や各財団から多くの寄付金を頂きました。支出は223万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は7万円の赤字で、次年度への繰越は296万円となりました。

2014年度予算

当期収入は192万円を見込み、支出は211万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。



(単位：万円)

	2013年度 決算	2014年度 予算
当期収入	216	192
当期支出	223	211
収支差額	7	19
前期繰越金	303	296
次期繰越金	296	278

和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動 (観察会や干潟まつり)

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は12回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟自然観察」を行い、2月にはまとめの発表会がありました。このほか、昨年11月には25回目の「和白干潟まつり」を開催し、約400人の参加がありました。



和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に、企業や学生を含む一般の参加者と共に清掃し、同時に自然観察も実施します。昨年は定例のクリーン作戦のほか臨時の清掃を加えると、年間19回行い、延べ1,315名が参加、45袋で2,089袋のゴミを回収しました。



和白干潟周辺の自然の調査

環境省、バードリサーチ、クリーンアップ全国事務局などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。(鳥9回、漂着ゴミ1回)



和白干潟の水質調査と砂質調査の結果 (毎月実施)

下の表は2013年10月から2014年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはほぼ例年どおりでした。砂質調査については、表層酸化層がアオサ堆積の影響を受けて、11月～3月、浜辺側10ヶ所地点で薄くなりました。(表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります。)

水質調査結果 (2013年10月～2014年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	5	5	5	5	5
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.005	0.005
透視度	cm	100	67	38	102	100	68

砂質調査結果 (2013年10月～2014年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10ヶ所地点 表層酸化層の厚さ	mm	4	9	18	19	21	10
還元層の黒色度	-	10	10	9	8	9	10
150ヶ所地点 表層酸化層の厚さ	mm	10	18	31	30	43	29
還元層の黒色度	-	9	9	9	7	9	9

山・川・海の流域会議

立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成され、今年1月には九州産業大学の内田准教授を招き、流域の「身近な植物」について学習しました。今年は5月に唐原川の清掃を計画しています。



ラムサール署名活動

2012年秋からラムサール条約登録を求める署名活動を展開中で、2013年12月には、第1次集約分、約7000名分を、環境省と福岡市に対して提出しました。これまで署名をお寄せいただいた皆様、有り難うございます。第2次集約は今年の12月ですので、さらに多くの方々からの署名が届きますよう、お待ちしております。署名用紙は和白干潟を守る会ホームページからも取り出すことができますので、よろしくお願いたします。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！ 大切にさせていただきます！

- 1/24 「あいおいニッセイ同和損害保険(株)」 寄付金を頂きました。
- 2/25, 3/25 「キヤノンマーケティングジャパンKK」 寄付金を頂きました。
- 3/26 「(公財)イオン環境財団」 助成金を頂きました。
- 3/28 「(公社)日本ユネスコ協会連盟」 活動応援金を頂きました。
- 3/31 「(公社)日本ユネスコ協会連盟」 「レクサス特別賞」 活動応援金を頂きました。



和白干潟の自然だより

(山本 廣子)

ハマニンニク

イネ科。今春はなかなか暖かくなりませんでした。早春の枯れ色のアシ原の中からハマウドとハマニンニクがみずみずしい緑の新芽を伸ばします。しかし3月に入ってもハマニンニクの穂が出ませんでした。3月も下旬になってから、やっと穂を付け始めました。北の植物で、和白海岸が日本の南限自生地になっています。和白干潟の雁ノ巣海岸にも群落地があります。九州では和白海岸にしか見られない植物です。



ハマニンニクの穂

ボウアオノリ



ボウアオノリ

アオノリ属。長さは1 cmから1 m。まだ寒い3月初め頃の和白干潟を歩きました。秋の困りもののアオサは寒さで分解して小さくなり、茶色に変色してアシ原近くの沿岸に打ち寄せていました。そこから唐原川河口付近までの干潟上の水たまりには、明るい黄緑色の小さなボウアオノリがいくつも育っていました。管状の体が小石から幾本も集まって、束のように出ています。長さはまだ10 cm程のものが多かったです。他にはオゴノリの若いものと、緑色の髪の毛を束ねたようなアサミドリシオグサが少しありました。アオサが堆積していない和白干潟は美しいですね。

カンムリカイツブリ

カイツブリ科。全長56 cm。和白干潟で越冬する冬鳥です。カイツブリでは最も大きく、特に首が長い。冬羽では顔から前頸部は白くなり、海上に白い棒が立っているように見えます。夏羽では黒い冠羽と橙赤色の頬の飾り羽が目立ちます。3月初めの頃に2羽の夏羽のカンムリカイツブリに出会いました。



カンムリカイツブリ

私が鳥の調査を始めた1991年頃には100羽を超えることがほとんどで最大数は1803羽でした。しかし沖合の人工島工事着工後は40羽以下になり1羽や2羽のこともありました。今年の冬も最大数は5羽でした。また海上にカンムリカイツブリの白い棒が立ち並ぶ日が来ますように！

これからの和白干潟の見どころは？（昨年春の様子から）

アシ原：新芽：アシ、ハママツナ、シロバナサクラタデ、ホコガタアカザ。

花：ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマウド、ハマヒルガオ。

穂：ハマニンニク。

ウグイスのさえずり。5 mmの巻貝クリイロカワザンショウ、オカミミガイ(絶滅危惧 類)。

干 潟：潮干狩り。干潟の生き物：コメツキガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ミズクラゲ、ウミニナ、ヤドカリ、アサリ、オキシジミ、マテガイ。アシ原付近：アシハラガニ、クロベンケイガニ。沿岸の泥地：ヤマトオサガニ。

水 鳥：渡りのシギ・チドリ：オオソリハシシギ、ハウロクシギ、オバシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、メダイチドリ。夏鳥：コアジサシ、オオヨシキリ。

クロツラヘラサギ、ミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。



ハママツナの新芽

2014年度日本湿地ネットワーク総会・シンポジウム開催



3月16日広島市において2014年度日本湿地ネットワーク総会とシンポジウムなどが開かれました。共同代表に辻淳夫さん、山内美登利さんが選出され、和臼干潟を守る会 山本代表は引き続き運営委員となりました。シンポジウムでは、中国山地の湿地のツキノワグマの生態、広島湾の人工干潟などの取組みの講演と和臼干潟を含む各地からの報告があり、山本代表が司会をつとめました。

海底湧水で「和臼の塩」づくり

海底湧水の研究者新井章吾さんから、塩を作って2月20日の「日本ユネスコ協会連盟の未来遺産登録証伝達式」の出席者にプレゼントしたらと提案があり、2月9日小雨模様の寒い中、11名が参加しました。新井さんの指導で海底湧水を採水し、2ℓのペットボトルに集め、3個の土鍋に入れ、カセットコンロで煮詰めていきました。蒸発して鍋底に白くかたまり、思ったより白い「和臼の塩」ができあがりしました。約40袋の小袋につめました。湧水の場所を変えて採った10本の湧水はみんなで持ち帰り、自家製塩にしました。和臼干潟の豊かさの再確認と守ることの重要性を実感しました。(河上)



バードウォッチングin和臼干潟2014



1月19日和臼干潟保全のつどい(和臼干潟を守る会、市港湾局ほか)主催で「バードウォッチングin和臼干潟2014」が開催され、海の広場に75名が集まりました。晴天に恵まれ、大勢の家族連れ参加が目立ちました。今回初めて海辺に設置した鳥たちの写真パネルはわかりやすいと好評でした。ミヤコドリ9羽をはじめダイシャクシギ、カンムリカイツブリ、ツクシガモなど20種類を観察できました。(山之内)

「九州環境市民フォーラム」で分科会「和臼干潟の自然と環境保全活動」を担当



第10回九州環境市民フォーラムが2月22、23日、糟屋郡新宮町「そびあ新宮」において開かれました。23日の分科会は和臼干潟を守る会が担当しました。山本代表がコーディネーターをつとめ「和臼干潟はみんなの宝(和臼干潟の自然と環境保全活動)」と題し、環境を守る保全活動が「にほんの里100選」や「未来遺産」登録につながったことについて講演しました。「山・川・海の流域会議」の松田代表も発足の経緯や活動内容などを報告しました。全体会では守る会から河上さんが分科会の報告をしました。(久保)



和臼小学校で「にほんの里100選」記念コンサート開催



2月25日和臼小学校で開校140周年記念行事の一つとして「にほんの里100選」記念コンサートが開かれ、和臼干潟を守る会8名も参加しました。中国出身でバリトン歌手、崔宗宝さんの日本と中国二つの故郷の歌やオペラの独唱、東日本大震災被災のがれきと高田の一本松から製作された「津波ヴァイオリン」の演奏がありました。終演後、コンサート出演者の方々を和臼干潟に御案内し喜んでいただきました。(今村)

気が付いたらあなたも電話してください!

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾局維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾局環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

092-643-3367

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

福岡県環境部自然環境課野生生物係

** お 願 い **

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう! とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう! (ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



●2013年12月

- 12/1 (日) 2013年冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 12/4 (水) 第25回和白干潟まつり第3回実行委員会
- 12/5 (木) 和白干潟通信109号編集会議
- 12/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 12/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 12/12 (木) 玄海風の子保育園とちどり保育園の和白干潟観察会
- 12/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/16 (月) 2013年冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/17 (火) 「和白干潟のラムサール条約登録」を求める署名の提出(福岡市)
- 12/19 (木) 「和白干潟のラムサール条約登録」を求める署名の提出(環境省)
- 12/22 (日) 精華女子短期大学の和白干潟観察会
- 12/23 (月) 和白干潟通信109号編集会議
- 12/25 (水) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2014年1月

- 1/5 (日) 2013年冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 1/11 (土) 「山・川・海の流域会議」/イオンキャンペーン
- 1/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
2013年冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
/和白海域水鳥調査(野鳥の会)
- 1/14 (火) 和白小学校4年生和白干潟観察会/干潟通信109号
発送会
- 1/19 (日) バードウォッチングin和白干潟2014参加
- 1/24 (金) 2013年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 1/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2014年2月

- 2/2 (日) 2013年冬期シギ・チドリ調査4回目(今津)
- 2/9 (日) 和白海岸探鳥会(野鳥の会)/和白干潟の湧水で塩づくり
- 2/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 2/12 (水) 2013年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/20 (木) 第5回未来遺産登録証伝達式(日本ユネスコ協会連盟)
- 2/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 2/23 (日) 九州環境市民フォーラムin福岡・新宮の分科会参加
- 2/26 (水) 平成25年度第2回エコパークゾーン水域利用連絡会議参加
- 2/27 (木) 和白小学校4年生の和白干潟観察会まとめ発表会



和白干潟のハマボウ

ご案内

くすだひろこ きりえ展

・ 和白干潟の息吹3 ・

日時：5月7日(水)～5月31日(土)

11:00～15:00, 17:30～20:30

会場：レストラン「花もも」(日曜定休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

本の紹介

「ちどりの叫び、しぎの夢」

—市民が守った藤前干潟—

辻敦夫著：JAWAN代表

東銀座出版社 03-3813-4561

1,619円+税

本の紹介

「海をよみがえらせる」

—諫早湾の再生から考える—

佐藤正典著：鹿児島大学教授

岩波ブックレット 03-5210-4111

560円+税

干潟のつぶやき「業者によるアサリの乱獲はやめて！」

漁業権のない博多湾東部・和白干潟のアサリは誰でも採ってよいことになっており、以前から業者によるアサリ採りは和白干潟のいたるところで行われています。そのせいか、最近和白干潟で見かけるアサリは1～2センチ位の小さなものが目立ちます。今年の1月ごろ、満潮時に海の広場の前数十メートルのところで業者がジョレンでアサリ採りをしていました。業者ですから浜辺のすぐ近くにアサリがないことはわかっているはずですが、干潟のいたるところを手当たり次第に探しているんですね。「漁業権がないということは、生業として漁をしてよいのか」と言いたいです。和白干潟の資源保護に何も貢献しないアサリ業者が生業として行うアサリ漁を、皆さんはどう思いますか。ジョレンを禁止するか、持ち込む容器はバケツ程度にするなど、早く規制をかけてほしいなあ。(山之内)



アサリ採り業者の船

観察会報告(2013年12月～2014年2月) (今村 恵美子)

12月12日 ちどり保育園と玄海風の子保育園の合同観察会

天候不順で延期になっていたちどり保育園くじら組の園児32名と先生3名、玄海風の子保育園かぼちゃ組の園児32名と先生4名による待ちに待った和白干潟観察会は、異例の合同観察会として実施しました。山本代表の説明をみんな真剣なまなざしで聞いていました。望遠鏡による観察は6グループに分かれ順番に並び、ツクシガモやクロツラヘラサギの姿に大喜びでした。アシ原に移動してサルの顔に似たセンダンの葉痕をルーペで観察、背丈よりも高い迷路のようなアシ原を抜け、再び干潟に出ました。冷たかったけどアサリを素手で掘りましたが、寒さでアサリは少なく、浄化実験のペットボトルにやっと半分くらいでした。貝やカニ、海藻などを確認してから、ゴミを拾いながら戻り、広場でたくさんの質問を受けました。アサリの浄化実験は寒いのに海水がきれいになっており、みんなびっくりしていました。(松田)



12月22日 精華女子短大25名と先生1名



暖かな陽気に恵まれ、まずきりえ館で山本代表より「野鳥観察と干潟の保全について」として和白干潟の場所や生きもの、鳥、人間とのかかわりについて説明がありました。海の広場に移動しましたが、残念なことに業者の船が3隻じょれんでアサリをたくさん採っていました。そのせいで鳥たちも沖のほうに移動していましたが、ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ダイシャクシギ、カモ類などを観察でき、学生の皆さんも興奮してスコップを覗いていました。アシ原のセンダンの葉痕をルーペで覗き、砂洲では鳥の足跡、オゴノリ、アオサ、コメツキガニが観察できました。ゴミを拾いながら海の広場へ戻り、記念撮影。きりえ館で、さっき見てきた和白干潟の風景を

美しいきり絵で表現している山本さんの作品の数々に感銘を受けていました。(久保)

1月14日 和白小学校4年生110名と先生5名

穏やかな日和に恵まれた野鳥観察とアシ原の植物主体の観察会でした。干潟のお話のおさらいと野鳥観察のポイント説明の後、8台の望遠鏡で20分間のバードウォッチング。ミヤコドリのオレンジ色のくちばしや黒白の羽根のコントラストに歓声を上げ、ツクシガモ、ダイシャクシギ、マガモ、オナガガモなど10数種の鳥を観察できました。アシ原の木の実、アシの枯れた穂やウラギクの綿毛、アシハラガニの巣穴や、センダンの葉痕を見たり、砂洲で様々な鳥の足跡を見つけたり、水の中に入っていく生徒も続出しました。みんな熱心にゴミを拾いながら戻りましたが、大変ゴミが多く12袋にもなり、環境を守ることの大切さがよくわかったようでした。(今村)



2月27日 和白小学校4年生の1年間の観察会まとめの発表会



7月と1月の自然観察を経て、まとめの発表会が和白小学校体育館でありました。事前に3つのテーマ「どうしたら和白干潟の自然を守れるか? そのために私たちにできることは何か? 和白干潟の未来はどうなってほしいか?」をあげていたので、それに答えるように、どのグループもよく学習して、壁新聞、紙芝居、ペープサート、クイズ、劇、歌とダンスなどの様々な形で発表しました。全体を2回に分けて、発表していない子供たちや保護者と守る会の私たちが見て回りました。最後に、山本代表のまとめの授業があり、「皆さんの故郷、和白干潟の未来の保全は皆さんに託します!」と語りかけました。保護者の方も昨年より多く、嬉しく思いました。(河上)

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

入会/観察会(申込等)	山之内芳晴	Tel/Fax.092-944-1543
クリーン作戦	田辺スミ子	Tel 090-1346-0460
会費	田中貞子	Tel/Fax.092-606-5588
干潟まつり	今村恵美子	Tel/Fax.092-942-5282
広報/調査/定例会議	山本廣子	Tel/Fax.092-606-0012



ハマダイコン

お知らせコーナー

第17期 和白干潟の自然観察ガイド講習会「干潟の生きものの役割を学ぼう」

●とき：6月29日(日) 14:00~17:00 中潮 干潮：17:06 満潮：10:35

●集合：和白干潟を守る会事務所(和白1-14-37 海のきりえ館1階)

●講師：藤井 暁彦氏 九州環境管理協会

・持ち物：筆記具、水筒、タオルなど ・服装：汚れても良い服装、帽子、長靴

★募集：30名 講習は室内とフィールド ★参加費：2,000円(和白干潟を守る会会員は無料)

★主催：和白干潟を守る会 ★申し込み：TEL/FAX 092-944-1543(山之内)

和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

●集合：和白干潟 海の広場(東区和白4丁目海岸)

●4月26日(土) 15時~17時 小雨決行「干潟・湿地を守る日2014」参加企画
「全国春のビーチクリーンアップ2014」参加企画

●6月8日(日) 9時半~11時半「ラブアースクリーンアップ」参加企画

★問合せ：Tel 090-1346-0460(田辺)



定例スケジュール

●定例会議(4/26, 5/24, 6/28)

毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です！仲間が待っています！

●クリーン作戦と自然観察(4/26, 5/24, 6/28)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合

※長靴があると便利。駐車場なし。

●和白海岸探鳥会(5/11, 6/8, 7/13)

主催：日本野鳥の会 福岡支部

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前公園集合

参加費：一般300円 野鳥の会会員100円

★会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

★カンパの協力お願い

郵便振替

01720-4-23860

キヤノン「未来につなぐふるさとプロジェクト」
クリック募金 実施中!(3/12~12/12)

「福岡県」の「和白干潟を守る会」に毎日1クリック
をお願いします！1円が守る会に寄付されます。

守る会のHPか、キヤノンのHPから

<http://cweb.canon.jp/csr/donation/index.html>

●たくさんのアクセスをよろしく！

和白干潟の鳥たち(その66) 黒面琵鷺

クロツラヘラサギ(コウノトリ目トキ科/Black-faced Spoonbill) [全長74cm]



(写真撮影：三宅 僚)

クロツラヘラサギは近年観察されるようになった鳥です。私が把握している記録では1988年に台湾や香港やベトナムで288羽が観察されており、この時に今津で5羽が記録されています。和白での最初の記録は1997年の2羽です。それから毎年世界一斉調査に参加して観察しました。今年1月の記録は世界で2726羽、日本では350羽が記録されています。絶滅危惧1B類。韓国や中国の黄海周辺の島で繁殖が確認されており、台湾や日本や東南アジアで越冬しています。和白干潟では自然海岸のため犬や人が入り、ねぐらになる場所がありません。食事や休息に訪れています。毎冬10羽から30羽が記録されており、楽しみです。(山本 廣子)

【編集】田辺スミ子・今村恵美子・高田 将文・山本廣子・山之内芳晴

《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ



★次号は2014年7月に発行予定★

【編集後記】

3月の探鳥会で和白川河口から干潟を望むと、渡りを前にしたカモたちがしきりに餌をさがしていました。何を食べているのだろうと思っていましたが、家に帰って撮った写真を見ると食べていたのはアオサでした。まだアオサが残っていたんですね。(山之内芳晴)

